



津別町長 佐藤 多一

時はいつも通過点

町民の皆様、新年明けましておめでとうございます。区切りの良い平成30年の新春を穏やかに迎えることとお慶び申し上げます。

さて、今年は私にとって任期最後の年になります。平成26年11月、3期目を目指すにあたり、キャッチフレーズを「まちをロマンチックなエコタウンに」とし、6つの公約を掲げました。その一つに「老朽化したインフラの整備」があります。道路・橋梁の計画的整備、上下水道の長寿命化、ごみ最終処分場の建設着手、木質ベレット等を活用した公共住宅の建設、そして、役場・保健福祉センター等複合施設の建設計画の策定を掲げて取り組んできました。

道路・橋梁の計画的整備につきましては、市街地町道整備計画と橋梁整備計画の下、順次工事を進めています。今年、順番からすると福王寺そばの道路整備を行うこととなります。

上下水道の長寿命化につきましては、人間の成分の殆どを成している水分をしっかりと確保するため、今年から3年をかけた上里導水管の更新工事を開始するとともに、下水道管理センターの耐震診断を行うこととしています。

木質ベレット等を活用した公共住宅の建設につきましては、平成28年に西町に4棟16戸を建設し、「歩いて暮らせる町づくり」をテーマに進めてきました。住宅建設がほぼ終了したところです。この西町団地は、平成26年に建設した旭町団地が受賞した北海道地域住宅賞を凌ぐ、最高賞である北海道知事賞を受賞しました。

役場・保健福祉センター等複合施設の建設計画の策定につきましては、一昨年のまちづくり懇談会に引き続き、昨年の懇談会においても「複合庁舎建設等まちなか再生基本計画」を議題に話し合いを行ってきました。今回は、農協青年部などの団体とも意見交換を行っていますが、これらを踏まえ、

謹賀新年



少子高齢化を見据えたまちづくり



津別町議会議員 鹿中 順一

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

昨年の日本経済は、2012年に始まった景気回復が、高度経済成長期の「いざなぎ景気」を超え戦後2番目の長さになったとはいえ、雇用者所得の増加や消費の活性化には繋がっていないため、景気が加熱せず、結果として緩やかな拡大が続いており、経済成長の実感が乏しいのが実状であります。TPP発効については、米国を除く11カ国による大筋合意により、各国の国内手続きなどが順調に進

めば2019年にも発効される見通しですが、今回の合意では各国の農業の共存は難しく、牛乳や乳製品などが安い価格で入り込むようになれば、日本の農業にとっては大きな脅威となります。いずれにしても、農業、林業、林産業が基幹産業である本町の経済活動にどのような影響を及ぼすのか、また、政府による対策が十分講じられるのか注視していく必要があります。

力のもと順調に推進されることを期待するものであります。老朽化したインフラの整備では、共和の一般廃棄物最終処分場が平成32年の新規処分場供用開始に向けて本年度は実施設計、水道事業では、昭和56年布設の上里地区導水管約10kmの更新工事を今後3年間かけて行い、本年度は2250mが整備されます。

観光拠点では、昭和59年に「木のまちつべつ」を象徴する施設として建設された木材工芸館の全面改修、上里町民の森自然公園には、森林セラピー基地として継続的に活動していくための拠点施設となるネイチャーセンターの建設整備が進められます。

また、本年度は老朽化した庁舎全体での意見交換の場を設けることとしています。

昨年8月8日、津別町に隣接する阿寒国立公園の名称に、新たに「摩周」が加わりました。道東にはこの他「知床国立公園」と「釧路湿原国立公園」があり、これを道東三大国立公園と呼んでいます。町民の皆様も良くご存知の通り、津別峠から見る阿寒摩周国立公園の景観は絶景です。一昨年の台風で大きな被害を受けた土砂崩れ箇所

の復旧工事も進み、今年の峠開きには間に合うと聞いています。多くの観光客の方々には是非とも足を運んでもらいたいスポットです。

また、今年の10月11日と12日の両日、津別町において「第4回全国木のまちサミット」を開催します。この事業は、北海道150年事業としても位置づけられ、全国から多くの方々に来ていただき、木の町つべつの良さを感じ取って欲しいと願っています。

結びになりますが、本年が町民の皆様にとって明るく希望ある一年となりますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。

また、今年が平成30年となり、平成30年11月3日をもって平成30年が終了し、平成31年1月1日より令和元年となります。皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。